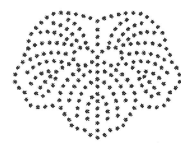


「リウマ伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に向う。という気持ちでお届けしています。



リウマ伝

31号
2022年6月26日
高野 寛馬

「認められる努力から」

「今どきの若いもんは」というセリフが板についてきたFPの高野です。

先日もある社長がパワハラ研修を受けて、その要件に「俺は全部該当するやないか、2度とこんな研修受けん」と周りの役員に当たり散らしていたという話を聞いて思わず爆笑しました。

その社長に親近感を抱いた私も絶滅危惧種になっているのかもしれません。事あるごとにハラスメントとかブラックだという言葉を聞くと、どうも居心地が悪く感じてしまうからです。

私は20代の頃、システム・エンジニアをしていました。在籍していた7年間の平均残業時間

は、おそろしく月80時間を下りません。今でいう立派なブラック企業ですが、当時はそんな言葉

もありませんでしたし、田舎から出て来た人間にとって「残業代」は有難いものでした。なんたって適びの軍資金になる訳ですから。世の中はバブル景気に浮かれ、夜の街はキラキラしてました。「楽しい」とは

「夜起きる」と信じ込み、寝るのを惜しんで遊び回ってました。システム・エンジニアというと、

オタクの集団のように思う人もいますが、少なくとも当時の職場は真逆で大工の棟梁みたいな親分肌の人が多かったです。

その一方で、私が新人の頃から「ホメて伸ばす」というのが少い。つ浸透し始めた時代のようにも思います。(妙に薄っぺらいホメ

言葉が増え、何でもホメられたがる面倒な時代の始まりかも知れませんが・・・)

優しい先輩もいれは厳しい先輩もいました。でも不思議と

今も懐かしく、お付き合いさせて頂いているのは、厳しかった人達ばかりです。

そんな私の新人時代のエピソードも最後にひとつ。

優しい先輩のYさんはいつも私をホメてくれていましたが、私は心の奥底で「それぐらいやるよ」と生意気なことを思っていました。

そんなある時、厳しい先輩のEさんがYさんに、

「高野をそんなことで誉めないくれる？」

私は一瞬ムツとしましたが、続いて「こう言われたのです。」

そんなこと、コイツは出来て当然なんだから。もっと大きい仕事をやらせてもらいたんだから。天にも昇るような気分になっ

たのは言うまでもありません。E先輩にずとついで行こう、と決意しました。(それが3年

に渡る地獄の入リ口とも知らずに・・・)

その後、転職はしたものの、この時の言葉は今も忘れません。人の能力を認める言葉こそ、人を動かす原動力である。と教えられたからです。そして今、年を重ねて、自分が人に認められる努力から、人を認める努力に切り替えて行かぬはならないなと思っ今日この頃です。



たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13
☎090-3407-2123
<https://www.takanozaikai.com> x-11 fp.takano@gmail.com

「リウマ伝」の題字は娘(当時9歳)が書いてくれました。